

皮膚科

1. スタッフ

| | |
|------------|--------|
| 科 長 (教 授) | 大槻マミ太郎 |
| 外来医長 (准教授) | 小宮根真弓 |
| 病棟医長 (准教授) | 村田 哲 |
| 医 員 (助 教) | 藤田 悦子 |
| (助 教) | 前川 武雄 |
| 病院助教 | 佐藤 篤子 |
| 病院助教 | 池田 雄一 |
| 病院助教 | 若旅 功二 |
| シニアレジデント | 4名 |

2. 診療科の特徴

当科では皮膚に症状のある疾患すべてを扱うが、大学病院としての性格上、悪性腫瘍や慢性難治性疾患の患者が多いのが特徴である。

県内に入院可能な皮膚科の施設が少ないこともあり、入院は毎年、紹介による高齢者の皮膚悪性腫瘍、すなわち有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫、パジェット病などの上皮系悪性腫瘍が大部分を占める。ただし、これらの悪性腫瘍の約3割は進行期であるため、外科的手術以外に放射線療法や化学療法も取り入れ、手術も植皮や皮弁に加え、光化学療法や超短パルス炭酸ガスレーザー治療も行っている。手術件数が増加傾向にある悪性黒色腫に対しては、センチネルリンパ節生検を取り入れ、過剰な予防的リンパ節郭清は行わずに必要な最小限の範囲にとどめるよう配慮している。

外来は午前中に初診と一般再診、午後は専門外来を設けている。専門外来は、より専門性の高い診療を必要とする疾患、すなわちアトピー性皮膚炎、乾癬、水疱症、膠原病、脱毛症、皮膚悪性腫瘍、皮膚レーザーなどに対するもので、県内だけでなく他県からの紹介患者も数多く来院している。なお、外来ではレーザー治療以外にも、紫外線療法や光化学療法、小手術を行うことも可能である。また、外来で診断や治療方針に苦慮する症例については、教授以下全員で診察する機会（外来クリニカルカンファランス）を設けているほか、皮膚生検を行った症例では病理カンファランスでの検討も行っており、個々の患者に即した最善の治療を皮膚科全体として追求するシステムを構築している。

新規開発臨床試験（治験）は乾癬をはじめとして毎年依頼があるが、とくに乾癬では2008年の栃木県患者会の立ち上げ以来、乾癬外来メンバーを中心に、新規治療導入を含めた啓発的活動を精力的に行っている。

施設認定

日本皮膚科学会認定専門医指定施設

専門医

| | |
|------------|--------|
| 日本皮膚科学会専門医 | 大槻マミ太郎 |
| | 村田 哲 |
| | 小宮根真弓 |
| | 前川 武雄 |
| | 藤田 悦子 |
| | 佐藤 篤子 |
| | 池田 雄一 |

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

1. 外来

| | |
|-----------|---------|
| 新来患者数 | 2,861人 |
| 再来患者数 | 31,629人 |
| 紹介率 | 46.7% |
| 一日平均受診患者数 | 144人/日 |
| 時間外患者数 | 444人 |

2) 入院患者数

| | |
|---------|-------|
| 入院患者数 | 226人 |
| 一日平均患者数 | 12.2人 |
| 平均在院日数 | 23日 |

| 疾患分類 | 患者数 |
|-----------------|---------|
| 湿疹・皮膚炎・蕁麻疹・痒疹 | 9 |
| 角化症・炎症性角化症・膿疱症 | 5 |
| 膠原病・類症・血管炎 | 8 |
| 水疱症 | 23 |
| 薬疹・中毒疹・ウイルス性発疹症 | 20 |
| 急性・慢性膿皮症 | 16 |
| 皮膚潰瘍・褥瘡・熱傷 | 11 |
| 皮膚悪性腫瘍 | 98 |
| 皮膚良性腫瘍 | 20 |
| 母斑 | 16 |
| 合計(人) | 226 |
| 平均年齢(歳) | 58.1 |
| 男:女 | 118:108 |

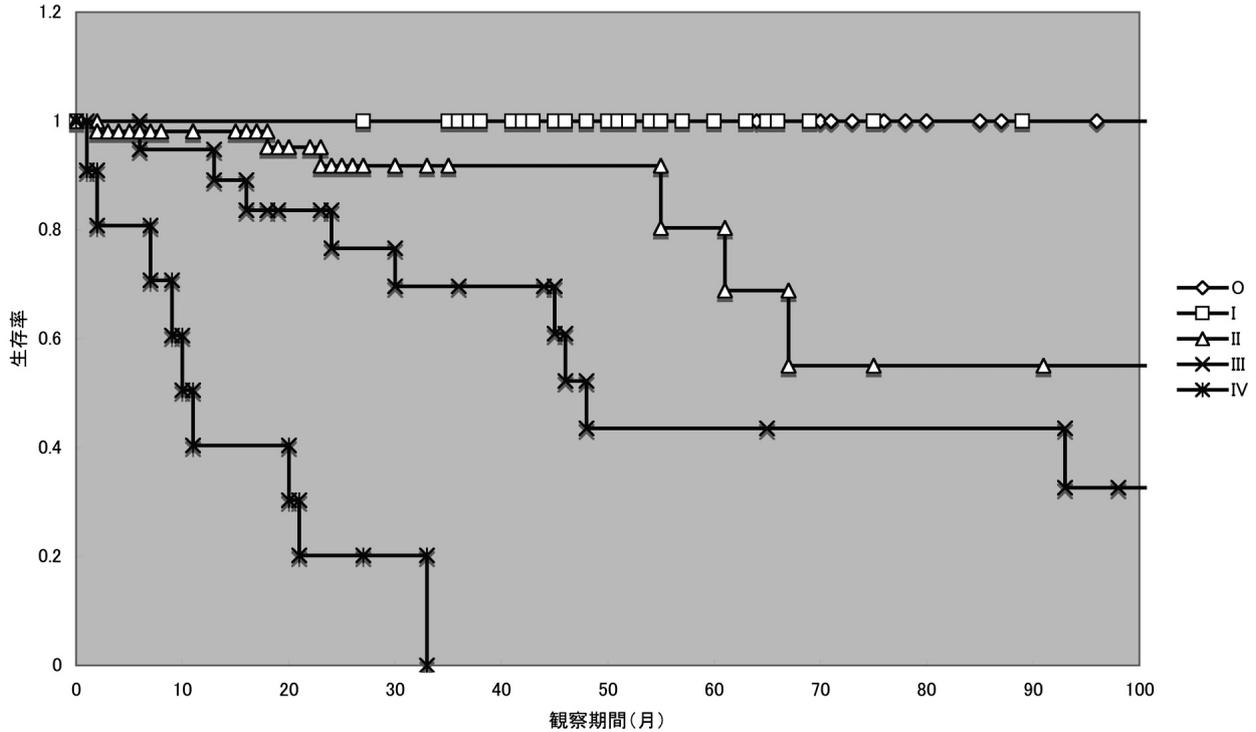
(3-1) 手術内訳

| | 入院 | 外来 |
|---------|----|-----|
| 皮膚悪性腫瘍 | 54 | 32 |
| 皮膚腫瘍切除術 | 30 | 505 |
| 皮膚切開術 | 4 | 46 |

| | | |
|-----------|-----|-------|
| デブリドマン | 9 | 0 |
| レーザー（全麻下） | 13 | 0 |
| その他（生検含む） | 116 | 450 |
| 合計（件） | 226 | 1,033 |

4) 悪性黒色腫治療成績（1998年～2009年）

Kaplan-Meier法



5) カンファレンス症例数

| | 症例数 | カンファレンス率* |
|-----------|-----|-----------|
| 外来カンファレンス | 342 | 11.9% |
| 病理カンファレンス | 418 | 36.7% |

*外来カンファレンス率＝

カンファレンス症例数／新来患者数 X100

*病理カンファレンス率＝

カンファレンス症例数／病理提出件数 X100

者を受け入れ、県内のみならず近隣地域も含めた患者のQOL向上に結びつけたい。また現在、年に数回開催している病診連携の会を、さらに地域を特定した形で立ち上げ、さらなる紹介率向上も図っていききたい。

平均在院日数の短縮も課題であるが、こちらは小手術や乾癬を対象とした短期入院を奨励するとともに、充実したクリニカルパス作成に向けても努力を重ねたい。

4. 事業計画・来年の目標等

皮膚科学は日々進歩しており、根治可能な悪性腫瘍も増えてはいるものの、治癒に至らしめることが困難な慢性疾患も多い。乾癬がその代表的な疾患であり、2010年1月に皮膚科領域で初となる生物学的製剤が承認されたことに伴い、今後はその導入目的の入院を含め、外来と入院の連携、また県内・県外の皮膚科医や一般医との連携をさらに充実させていきたい。また、皮膚外科部門の充実も課題であり、悪性腫瘍切除に伴うリンパ節郭清、そして下肢静脈瘤の外科的処置（専門外来も設置予定）などにも力を注ぎたい。

これらの努力を積み重ねながら、幅広い地域からの患